

## 「生活文化の伝承と多世代交流 共生のまちづくりに貢献する人材の育成」

少子高齢化や人口減少が進む中、持続可能な社会の構築に向けて、課題意識を持ち、生涯にわたって様々な人と協働しながら、地域課題の発見・解決を目指して主体的に行動し、生活文化の継承、生活産業の振興や多世代交流、共生のまちづくりに貢献する地域人材の育成を目的とする。

- コンソーシアムの構成機関（教育機関 [愛媛大学・小松小学校・小松中学校]、愛媛県 [農林水産部漁政課、高校教育課]、西条市 [小松総合支所・子育て交流センター・小松公民館]、小松つばき会、(株)マルブン、(株)DEC O）
- カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員を非常勤講師として雇用
- 運営指導委員会（学校教育に専門的知識を有する者3名、関係行政機関の職員2名、学識経験者1名で構成）
- 研究推進委員会（校長を中心に校内推進体制として構築）

## 令和元年度の目標

## 取組状況や成果

## 次年度への課題

地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究

「課題研究」「生活産業基礎」に加え、家庭科科目の「家庭総合」「フードデザイン」、学校行事、課外活動の時間を利用して事業を実施

- ①事業の計画的実施のために家庭科以外の教科も含めたカリキュラム・マネジメントを実施
- ②学校全体で取り組む研究開発体制の構築
- ③事業内容の精選

学習指導方法の研究  
地域の生活産業・生活文化を知り、課題を考える。

- ①椿・魚食・はだか麦などの知識・技能習得
- ②西条市内の食に関するコンテストで3回優勝
- ③小松地域における多世代交流を実施

- ①新しいレシピ・製品開発
- ②県や全国レベルのコンテストへの挑戦
- ③生徒が企画に関わる形での多世代交流の実施

地域課題研究の評価方法の研究

アンケート結果の分析によって、地域貢献したいと考える生徒を育成できているかを把握

「振り返りワークシート」「生徒への個別の聞き取り」の分析を事業内容に反映させ、生徒の意欲をより喚起

コンソーシアムとの連携の在り方についての研究

コンソーシアム構成機関とともに、研究成果を広め、地域を活性化する方法を開発

新たな機関との連携も模索しつつ、将来にわたって継続できる事業を重点的に実施